

関先生が設計、設計監理する滝見橋は、静岡県富士宮市の世界文化遺産の構成資産白糸の滝に架橋され、2013年12月21日に無事開通式を迎えました。

滝見橋のデザインの詳細については、2013年12月に第9回土木学会 景観・デザイン研究発表会で発表され、如何にコンパクトで、耐久性が高く、維持管理コストが抑えられるかという構造テーマで、日本初の扁平バラストアーチ構造という構造形式が生まれたかを説明し、専門家の中で話題になっていました。

その後、2014年3月日経コンストラクションに、2014年5月PC工学会誌に、8月に橋梁と基礎に掲載され、9月は、土木学会年次学術講演会、10月は、PC工学会のシンポジウムで発表しました。

2014年10月1日、関係者の努力が実り、滝見橋がグッドデザイン賞を受賞しました。受賞者の中で、富士宮市の石川さん、構造設計を担当した伊東さん、施工の技術担当の長谷川さん、そして仲村先生、関先生は、日本大学理工学部土木工学科のOBなのです。日大理工土木ってすごいかも。

表彰式は、11月4日六本木ミッドタウンで開催されました。受賞コメントとして「扁平アーチに支持されたとてもシンブルなシルエットが周辺の自然景観とマッチしている。場所性に配慮し、不要な要素を削ぎ落としたデザインである。」として評価された。

2014年グッドデザイン賞 | 滝見橋 受賞者

[受賞者]

事業者 | 富士宮市

プロデューサー | 富士宮市 大原勝, 佐藤和幸, 石川泰裕
日本大学理工学部 天野光一

ディレクター | 日本大学理工学部 関文夫, 仲村 成貴

デザイナー | パシフィックコンサルタンツ(株) 伊東靖, 石原大作, 日本大学理工学部 関文夫, ドービー-建設工業(株) 山崎路明, 坂野耕輔, 長谷川剛

関先生デザインの滝見橋が2014年グッドデザイン賞受賞



プレストレストバラスト扁平アーチ構造というコンパクトな構造で地形改変を抑えた滝見橋



滝見橋の美しいプロポーション



ミッドタウンの受賞会場での受賞者

国際学生 BIM & VR コンペティション 日大4連覇ならず



第4回VDWCノミネート賞受賞9チームと審査委員



プレゼンテーションを行う山崎和幸氏と武居凌之介氏

Virtual Reality (通称VR) 仮想空間体験なるコンピュータグラフィックスの国際学生コンペティションが開催された。第4回となる2014年のテーマは、“Sustainable Olympic Town in Tokyo Bay 2020” 2020年東京オリンピックを契機に発展する新木場・辰日地域”。東京は2020年に開催されるオリンピックに向けて、東京都心の発展の最大のフロンティアでもある。新たな競技施設が集中する新木場・辰日地域を対象とし、オリンピック競技施設のデザインと言うより、それを含むこの地域の都市デザインについて考えてもらいたい。なぜなら、長期的な地域の発展を考えたオリンピックの観客のために1次的に必要な交通施設、宿泊施設、飲食施設など様々な機能をオリンピック終了後にも有効に活用できるようなアイデアが求められるからというもの。(今回は世界3か国35チームよりエントリーがありました) 予選選考で9作品がノミネートされ、最優秀賞、優秀賞および審査員特別賞5点が選定されました。日本大学理工学部土木工学科構造・デザイン研究室は、3年生と4年生が混合した2チーム13名で応募し、その結果、ノミネート賞まで入賞することができた。

が、上位の賞の受賞には至らなかった。参加国は、中国、韓国、日本で、分野も建築、土木、造園、情報など多岐に亘る分野からの応募で、年々レベルアップが凄い。

当研究室は、第1回コンペティションから参加して上位入賞を果たし、昨年はワールドカップを手にしたチームだった。次年のリベンジに期待したい。2014年11月20日

○ノミネート賞 Nomination Award

チーム名: BULLS

題名: The town which can grow up with a tree

メンバー: B4 畠山 亮隆

B4 久保田雄基

B4 武居凌之介

B3 市橋 和人

B3 黒岩 優輔

B3 黒田慎之介

B3 小泉 友哉

○ノミネート賞 Nomination Award

チーム名: ethys

題名: SKY WALKING

メンバー: B4 山崎 将寛

B4 山崎 将寛

B3 河合 悟志

B3 木野 翼

B3 濱野 北斗

B3 レイ・アンド・ジョー・フィン

群馬県甘楽町伝統的石積み護岸の修復作業

構造・デザイン研究室では、群馬県甘楽町の石積み護岸の調査と石積み護岸の修復作業を行っています。事前に関先生からレクチャアを受け、400年前の石材を使いながら石置場で仮組の練習を行い、復元箇所へ石材を運んで修復しています。自分の作った構造物が、100年いや400年残るといふ土木事業のイロハを体験できる作業です。

今年3年目で、10月17日18日に第4回の修復作業を行いました。根石を選び、積石は、顔と向きを考えながらパズルを解いていきます。最終的には、天端石を据えて覆土して完成になります。約4m程の修復に8人掛りで1日要します。もちろん、修復作業が終わった後は、甘楽町役場職員を上州けんか呑みによる懇親会があり、忘れられない思い出の日になります。自分で、自分の石積み積みた人は、関研にアポイントを忘れずに。

担当: 竹田知樹(M1), 濱野 北斗(B3), 黒田慎之介(B3)



日楽町役場でスケジュール打合せ



空石積み護岸の仮組練習



完成した石積みを見学する学生



空石積み護岸の仮組練習



崩壊している空石積み護岸



修復後の空石積み護岸